



●明興産業株式会社 丸亀工場

所在地 丸亀市蓬萊町 53 番地 4 号

業種 製造業

事業概要 各種樹脂切削加工、熱硬化性プラスチック成形、電力機器組立

従業員数 43 人（男性 31 人、女性 12 人）

育児休業取得期間 H31 年 3～4 月に 21 日間取得

※今回の取材は、常務取締役、統括部長及び、育児取得をされたグループリーダーにお話をお伺いしています。

○制度を知り、利用しようと思ったきっかけ

今年 3 月末に社内の育児・介護休業制度などの規程が見直しされたところだった。そんなときに、ちょうどお子さんが生まれたばかりの男性従業員がいたので、積極的に声かけをし、取得してもらった。制度については、育児を取得した後、市の広報紙でこの助成金制度の説明記事が載っており、調べてもらったら利用できるということだったので、申請した。

○育児取得を積極的にすすめたのはなぜですか

家庭があつての仕事、その家庭が安心できる状態であれば、従業員は持っている能力を最大限に発揮できるという考えを持っている。また、個々の業務責任はちゃんと認識してもらった上だが、有休取得は、とり易い社風だと思っており取得率は高い方だと思う。そんな社風なので、今回の規程見直しをうまく活用してもらいたいとの思いもあわさって、部長と一緒に勧めた。

- ▶社内レクリエーションでは、そうめん流しやバーベキューが好評。積極的に家族同伴での参加を勧めているそうだ（活動紹介として社内新聞も作成されている）



○そうはいつでも、休業中の業務再分担などは大変だったのでは

会社では、一人が複数の異なる作業や工程を遂行できるよう技能を身に付ける、多能工化という取り組みをかなり以前から実践しており、今回の場合も、グループリーダーをカバーする従業員がちゃんといた。このバックアップできる体制づくりは 20 年近く取り組んでいるので、社員ひとりひとりが、バックアップすることを大変というより普通のことと感じているのではないか。

○今回、育児休業を取得した社員さんの感想、変化など

最初は全く育児休業を知らなかった。常務や部長が気にかけて勧めてくれて、妻に話しても「そんなの取れるん」と言うぐらいだった。勧められた時期がちょうど、上の子が卒園する

ころと重なっていて、妻が大変そうだったこともあり、3週間取らせてもらった。取得できたことはとても良かったと思っているが、妻が出産後虫垂炎になったことを思うと、どちらにしても休む必要があったのかな。あのときは本当に大変でした。

復帰後は、女性パートさんから育休について話しかけられることもあり、会話のきっかけになっている。また、まだ結婚していない自分より若い男性社員と話をする、「自分もとってみたい」という話を聞く。そのときは応援したい。



◀写真左から統括部長、育休取得されたグループリーダー、常務取締役

○日ごろから、相談に行きやすいよう工夫していることはあるか

休憩時間などに、従業員と話をするよう心掛けている。話す内容は何気ないことでも良いと思っていて、何かあれば自分に話してくれたらという気持ちだ。今回のような規程改正の話は週1回の全体朝礼で周知しているが、仕事場の良く目に付くところにも冊子を配置しており、分からないことなどは自分のところに来るよう伝えている。

○ワーク・ライフ・バランス推進、働きやすい職場環境づくりのために行政からどのような支援があったらいいと思うか

パパ友がほしいと思うが、なかなかきっかけがない。幼稚園や保育所の役員になる方法もあるだろうが、違ったきっかけ、しかけがあれば良いと思う。職場環境づくりではないが、子育て環境づくりとして、屋内で子どもと一緒に過ごせる場所や催しがほしい。暑い時期は、屋外で子どもと一緒に遊ぶのは大変なので。

(取材を終えての感想)

常務さんをはじめ、社員のみなさんの笑顔がとても素敵な、アットホームな会社という印象が取材を通して強く感じた。この笑顔は、会社の経営理念、「人をつくり、物をつくり、お客様をつくり、伸びる事業つくりで社会に貢献する」ということを社員ひとりひとりが理解・体現されているからこそできるものだと思う。今回の取材（インタビュー）では、多能工化という言葉は何度も耳にした。これまで、男性社員の育休取得者はいなかったとのことだが、この理念を基礎に人材育成に当たられている会社であれば、今後、育休取得希望者が出てきても、無理なく事業継続しながら育休取得させるものと確信する。

また、料理ができるというのは最低限のスキルだと小さいころから教わってきたので、料理ができることを特別なことと思わないと言われたグループリーダーの言葉もとても印象的だった。